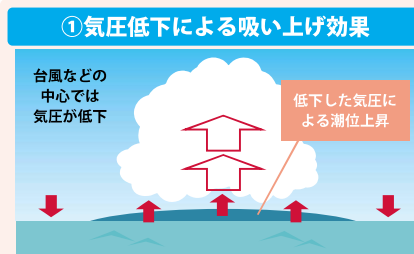


高潮とは

高潮の起こりかた

高潮は、台風などの発達した低気圧が接近するとき、①気圧低下による吸い上げ効果や、②風による吹き寄せ効果により、海面（潮位）が海岸の堤防よりも高くなることで発生します。



気圧は台風や低気圧の中心では周辺より低くなるため、海水は気圧の高い周辺の空気により押し下げられ、中心付近の空気は海水を吸い上げるように作用することにより海面が上昇します。気圧が1ヘクトパスカル[hPa]下がると、海面は約1cm上昇します。



台風や低気圧によって強い風が沖から海岸に向かって吹くことで、海水は海岸に吹き寄せられます。これにより海岸付近の海面が上昇します。

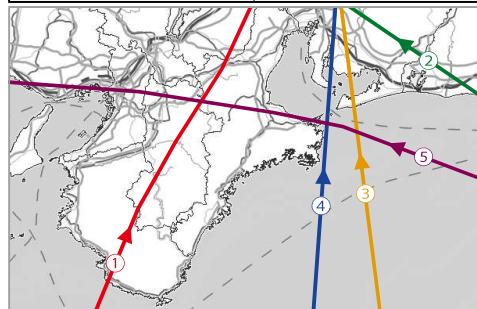
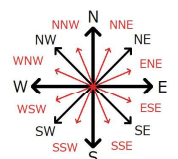
台風や発達した低気圧が近づくと短い時間の間に潮位が急速に上昇します。海岸堤防の高さを潮位が超えることで一気に浸水します。また、高潮と満潮の時刻が重なる場合には潮位が一層上昇して大災害の発生につながる可能性もあります。

伊勢湾沿岸（三重県区間）高潮浸水想定区域図について

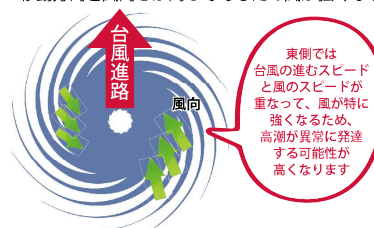
伊勢湾沿岸（三重県区間）の高潮浸水想定区域図は、高潮の影響が極めて大きくなる台風を想定し、以下の条件でシミュレーションされた複数の結果から、最大となる浸水区域、浸水深及び浸水継続時間を抽出して図示したものです。

- ① 台風の中心気圧は、日本に上陸した最大規模の台風である室戸台風（昭和9年）相当とし、910hPa（上陸後も一定気圧）としています。
- ② 台風の移動速度は、日本に上陸した最速規模の台風である伊勢湾台風（昭和34年）相当とし、73km/hで一定のまま移動するものとしています。
- ③ 想定する台風の経路は、三重県の海岸線の方をふまえて、各海岸で高潮に伴う潮位の上昇が最大となるように、下表に示す過去の実績に基づき複数の台風経路が設定されています。

台風経路	選定理由
① 1959年台風第15号（伊勢湾台風）	NNE方向に進む台風のうち、最低気圧が最も低い
② 1966年台風第14号	NW方向に進む台風のうち、最低気圧が最も低い
③ 1972年台風第6号	NNW方向に進む台風のうち、最低気圧が最も低い
④ 1982年台風第10号	N方向に進む台風のうち、最低気圧が最も低い
⑤ 2018年台風第12号	WNW方向に進む台風のうち、最低気圧が最も低い



台風は反時計回りに強い風が吹き込んでいます。台風の進行方向に向かって右の半円では、台風の移動方向と風向きが同じであるため風が強くなります。



高潮に関する警報・注意報の種類

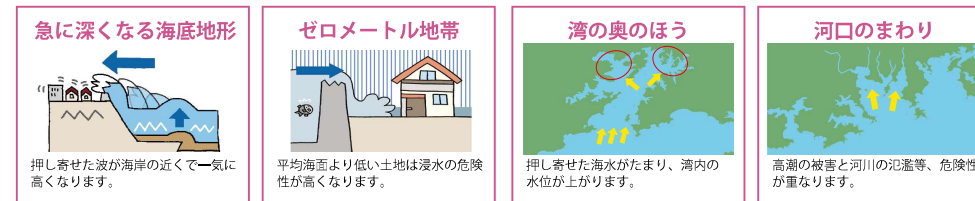
高潮によって災害が起こるおそれのあるときは「注意報」を、重大な災害が起こるおそれのあるときは「警報」を、さらに重大な災害が起こるおそれが著しく大きいときは「特別警報」が気象庁から発表されます。

種類	概要
高潮特別警報	数十年に一度の強さの台風 ^(※) や同程度の温帯低気圧台風により高潮になると予想されるとき
高潮警報	台風や低気圧等による異常な海面の上昇により重大な災害が発生するおそれがあると予想されるとき
高潮注意報	台風や低気圧等による異常な海面の上昇により災害が発生するおそれがあると予想されるとき

※数十年に一度の強さの台風とは、「伊勢湾台風」級（中心気圧930hPa以下または最大風速50m/s以上）の台風や同程度の温帯低気圧が来襲する場合。

高潮災害を受けやすい場所

高潮による海面上昇は、海底地形や海岸形状により大きく異なります。次のようなところでは特に高潮に対する注意が必要です。



高潮災害の危険性

「自分は大丈夫」の危険

- 高潮注意報や高潮警報が発表され、避難に関する呼びかけがあっても「自分は大丈夫」、「もう少し様子を見てからでも間に合う」と思っていると、本当に危険が迫った場合、逃げ遅れる原因の1つになります。
- 避難に関する呼びかけが有れば、早めの避難行動を心がけましょう。



避難する場合の危険

- 激しい風雨、潮流、漂流物などの障害物により、避難が困難になります。
- 一般的に水深30cm以上になると、大人でも歩くのが困難になります。
- 深夜の災害は昼間に比べて、特に危険です。



水路などの危険

- 浸水時には、道路と水路の区別がつきにくくなります。
- 長い棒などで水面を確認しながら避難しましょう。
- 普段から水路の場所を確認し、高潮ハザードマップにチェックを付けておきましょう。

